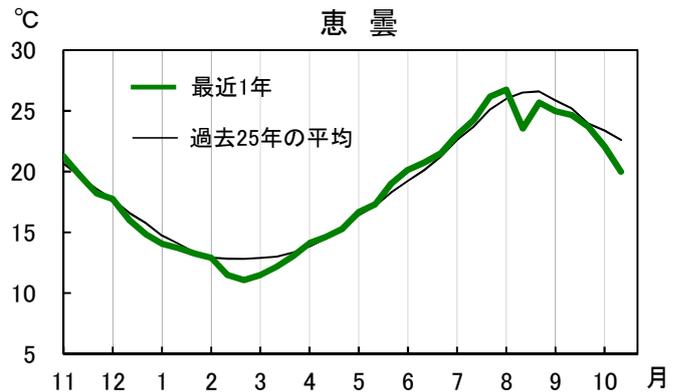
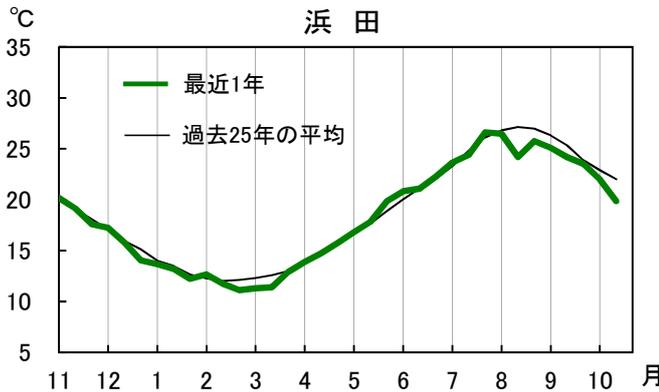




《9～10月の海況》

9月	月平均	平年差	評価
浜田	24.3℃	-0.9℃	やや低め
恵曇	24.5℃	-0.5℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田地区では9月上・中旬は「やや低め」で、下旬は「平年並み」になりました。10月に入り、再び低め傾向に転じ、上旬は「やや低め」、中旬は「はなはだ低め」で経過しています。一方、恵曇地区では9月は「平年並み」でしたが、10月に入り浜田地区と同様に低め傾向に転じ、上旬は「かなり低め」、中旬は「はなはだ低め」で経過しています。



《9月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。マアジは平年の9割、サバ類は6割でしたが、サワラ類は1.8倍となりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量はそれぞれ平年並みとなりました。この時期主体となるマアジは西郷地区で平年の1.5倍、浦郷で2.8倍でしたが、ブリを含むその他の魚種は概ね平年並みか平年を下回りました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）では、前月に続きケンサキイカ主体（全体の66.2%）で、スルメイカ（全体の33.8%）も混じる漁況となり、1隻1航海当りの漁獲量は326kgで平年を下回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の91.5%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は38kgで平年を下回りました。その他、スルメイカ（同5.5%）、ソデイカ（同3.0%）も水揚げされました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではキダイ、ムシガレイ、ソウハチ主体の漁獲でした。1統1航海当り漁獲量は11.5トンで、前年、平年（過去10年平均）並みの水揚げとなりました。キダイは前漁期から引き続き好調に推移し、平年の2.5倍の水揚げ、またソウハチも好調であり、平年の2.9倍の水揚げがありました。一方、ケンサキイカは低調で平年の2割の水揚げに留まり、ムシガレイ、アナゴ類も平年の6～7割の水揚げに留まりました。

【小型底びき網漁業】

和江地区ではキダイ主体、久手地区ではニギス、アンコウ主体の漁況でした。1隻1航海当りの漁獲量は、両地区とも平年を下回り、7割の水揚げに留まりました。和江地区ではキダイ、アンコウが、久手地区ではアンコウ、ソウハチが平年の1.1～1.8倍の水揚げがありました。一方、ケンサキイカは低調で、両地区とも平年の1～2割の水揚げに留まりました。

【定置網漁業】

石見地区ではサワラ類主体の漁況で、1統当りではサワラ類が平年の1.5倍だったものの、マグロ類（コシナガ）が平年の1割、その他の魚種も概ね平年並みだったため、結果として全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではサワラ類、マアジ主体の漁況で、1統当りではサワラ類が平年の1.5倍でしたが、その他の魚種は概ね平年並みだったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。隠岐地区ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の4.4倍、ブリが2倍だったものの、この時期主体となるケンサキイカが平年の1割程度となったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカ、アマダイ、マアジが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は20kgで平年を下回りました。石見地区でケンサキイカ、ヒラマサ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は17kgで平年を下回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイ、その他の魚類（キンメダイ、チカメキントキ主体）が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は18kgで平年を下回りました。

※8月の定置網漁業（石見地区）全統総漁獲量の表記について誤りがありました。

誤：平年を下回る 正：平年並み

【平成 26 年 9 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サワラ類	228トン	242%	95%	10.4トン	165%	114%	○
	西郷	マアジ、ブリ	5,508トン	67%	102%	52.0トン	57%	84%	○
	浦郷	マアジ、ブリ	3,008トン	74%	126%	41.0トン	61%	88%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	123トン	61%	34%	326kg	87%	76%	▲
	西郷	ケンサキイカ	3トン	10%	7%	38kg	29%	24%	▲
沖合 底びき網	浜田	キダイ、ムシガレイ、ソウハチ	298トン	90%	92%	11.5トン	101%	96%	○
小型 底びき網	久手	ニギス、アンコウ	153トン	90%	68%	602kg	86%	74%	▲
	和江	キダイ	280トン	94%	80%	627kg	90%	74%	▲
定置網 (大型)	浜田	サワラ類	23トン	103%	67%	1.5トン	83%	112%	○
	美保関	マアジ、サワラ類、シイラ	63トン	52%	87%	634kg	49%	75%	▲
	浦郷	ブリ、サワラ類、マアジ	10トン	51%	59%	345kg	48%	50%	▲
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ、ヒラマサ	10トン	96%	59%	25kg	78%	61%	▲
	大社	ケンサキイカ、カサゴ・メバル類、マアジ	6トン	105%	58%	14kg	89%	62%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、その他の魚類(キンメダイ・チカメキントキ主体)、マダイ	5トン	25%	24%	21kg	56%	49%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした。

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成26年10月28日

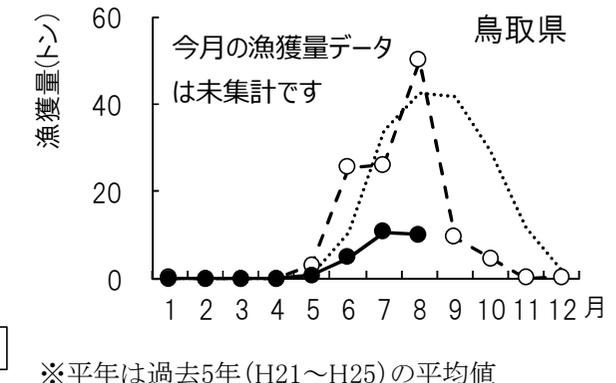
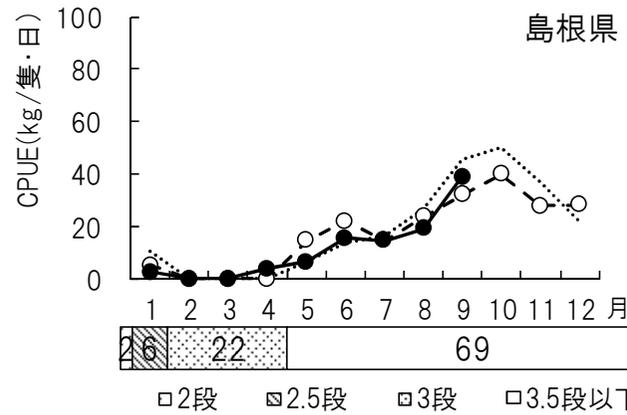
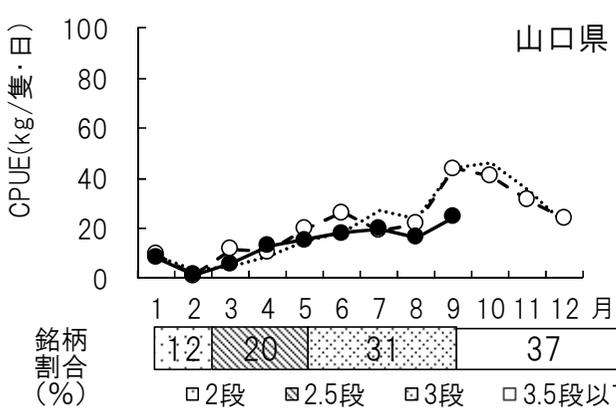
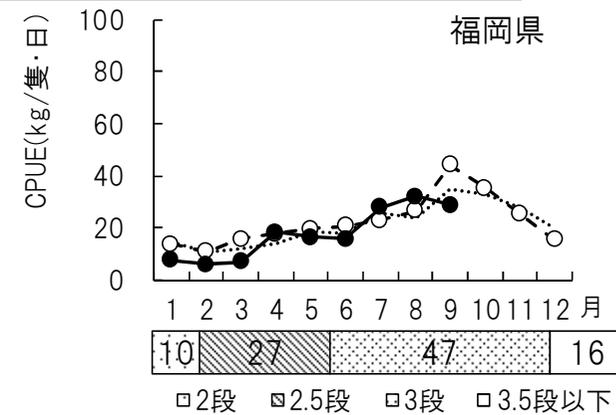
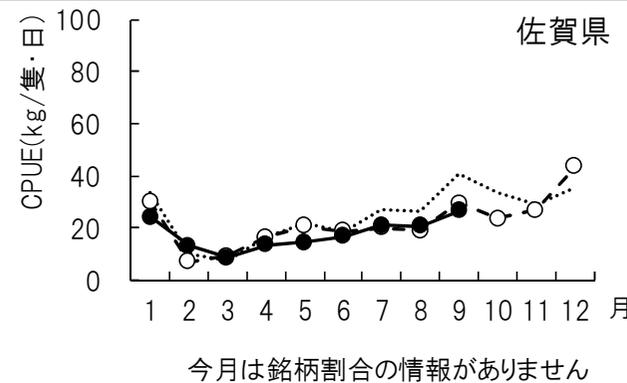
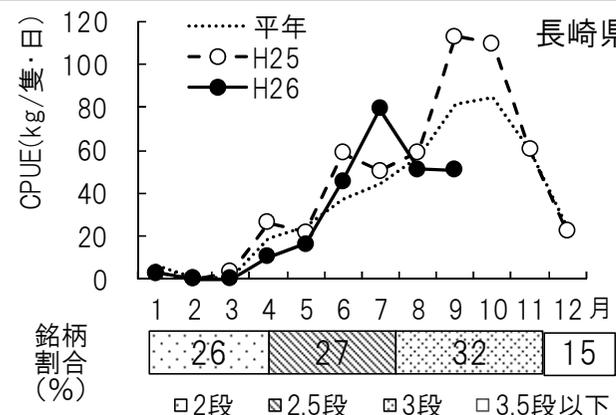
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：9月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

漁獲量で見ると、各県とも軒並み低調のようです。

長崎県	対馬東海域における漁獲量は前年・平年を下回りました(前年比51%、平年比50%)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年並で、平年を下回りました(前年比105%、平年比64%)。	福岡県	代表港の9月のCPUEは平年を下回り、漁獲量は前年比51%、平年比58%と不漁でした。また1～9月の累積漁獲量は前年比73%、平年比74%と8月に引き続き低調に推移しています。
山口県	漁獲量は前年および平年を大きく下回りました(前年比47%、平年比30%)。	島根県	主要7港の水揚げ量は118トンで、前年・平年を下回りました(前年比50%、平年比26%)。	鳥取県	9月の漁獲量は集計中ですが、8月までの漁獲量は前年及び平年の値を大きく下回りました(前年比26%、平年比30%)。



※平年は過去5年(H21～H25)の平均値

Ⅱ：10月上旬の底層水温

長崎県	10月の五島西沖観測は行っていません(10月15日現在)。	佐賀県	壱岐水道は22.7～23.7℃、対馬東水道は15.5～23.4℃でした。	福岡県	10月2-3日の調査の結果、沿岸域は22～23℃台で平年並み、沖合域は16～20℃台で平年並みからやや高めとなっていました。
山口県	底層水温は、川尻岬北西沖で10℃以下の冷水が出現したため、平年より甚だ低めであった他は、18～22℃台を示し平年並みから高めでした。	島根県	水深200m以浅では、温泉津沖は2～12℃で、沿岸寄りはやや高め、沖合寄りはやや低めで、高山沖は4～21℃で、平年並み～かなり高めでした。	鳥取県	水深100mの海域の底層水温は17℃前後でした。

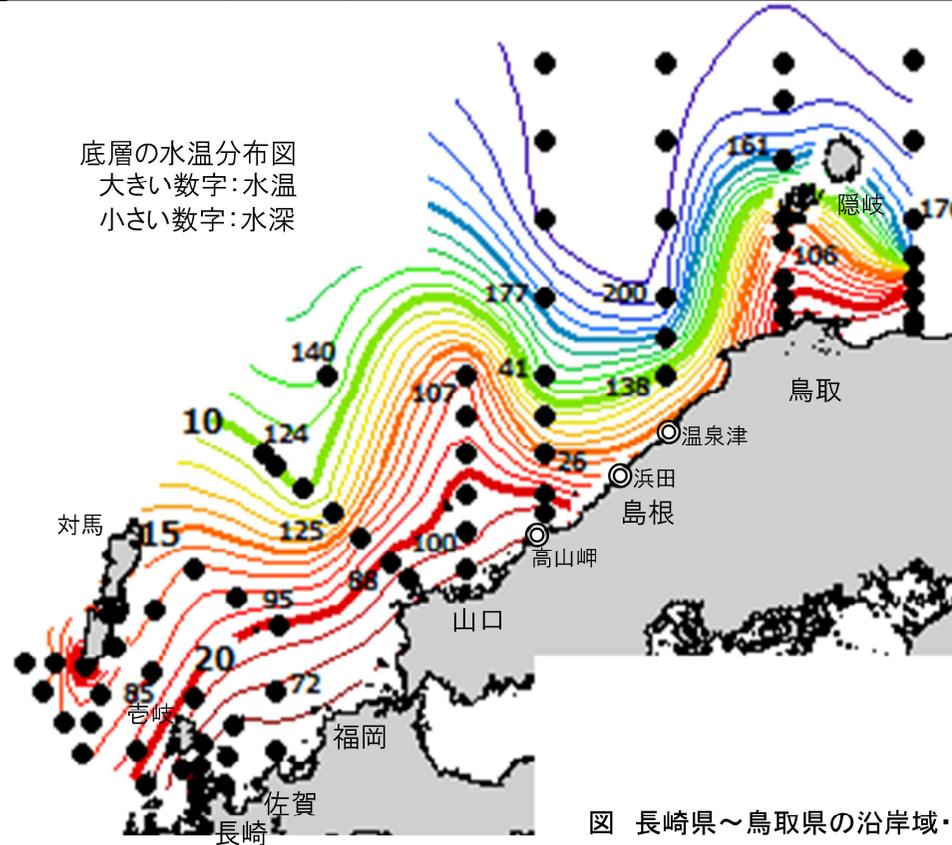


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図